

SGLT2 阻害薬の投与が 体組成に与える影響

住吉 周作, 下野 大, 二田 哲博
(二田哲博クリニック)

Key words ▶

SGLT2 阻害薬
体重減少
体組成分析
食習慣
肥満

要 旨

2型糖尿病患者 76 名に SGLT2 阻害薬を投与し、体重および血糖コントロールに与える影響を検討した。3 ヶ月間継続投与した 65 例について、体重は $79.6 \pm 2.1 \text{ kg}$ から $77.5 \pm 2.1 \text{ kg}$ へ減少し、HbA1c は $7.57 \pm 0.13\%$ から $7.23 \pm 0.13\%$ へ低下した。また、26 名について空腹時の血中 C ペプチド測定および体成分分析を 6 ヶ月間にわたり行った。腹囲および空腹時血中 C ペプチドは低下しており、インスリン抵抗性の改善が示唆された。また、体脂肪量は $25.1 \pm 1.2 \text{ kg}$ から $24.0 \pm 1.4 \text{ kg}$ へ減少したが、体脂肪率に変化はなかった。筋肉量は減少しており、運動療法を継続することの重要性が示唆された。

○ 緒 言 ○

2 型糖尿病は、インスリン分泌低下やインスリン抵抗性をきたす素因を含む複数の遺伝因子に、過食、運動不足、肥満、ストレスなどの環境因子および加齢が加わり発症するとされ、食事療法・運動療法と併せて病態や必要性に応じたさまざまな薬物療法が選択される¹⁾。日本人の糖尿病患者は欧米人の糖尿病患者と比べ BMI (body mass index) は低値であり、肥満度は一般人とほとんど変わらないことが報告されており²⁾、日本人においては欧米人と比較してインスリン分泌が低下してい

ることがその一因と考えられる³⁾。一方、日本においても成人男性における過体重の割合は増加傾向であり、適正体重を目指す指導は重要なものとなっている⁴⁾。現状として、国民健康・栄養調査においてわが国で BMI 25 kg/m^2 以上の者 (20 歳以上) の割合は、男性 29.1%、女性 19.4% と報告されている⁵⁾。日本人における成人の糖尿病有病率は BMI が 24 kg/m^2 前後の軽度上昇した段階から明らかに上昇し、米国白人より BMI が低い段階で糖尿病のリスクが増加し始めることが報告されており⁶⁾、肥満の改善も治療において重要であるものと考えられる。

わが国における糖尿病治療の実態を調査した糖尿病データマネジメント研究会 (JDDM) の報告によると、わが国における糖尿病患者の平均 BMI は増加傾向にあり、調査対象となった 2 型糖尿病患者の平均 BMI は 2013 年度において 25.00 kg/m^2 であった⁷⁾。2 型糖尿病治療薬の 1 つである SGLT2 阻害薬は、近位尿細管でのブドウ糖の再吸収を抑制することで尿糖排泄を促進し血糖低下作用を発揮する薬剤であり、体重低下が期待される薬剤と位置づけられている¹⁾。しかしながら、わが国における有効性および安全性は十分に確立されておらず、SGLT2 阻害薬の